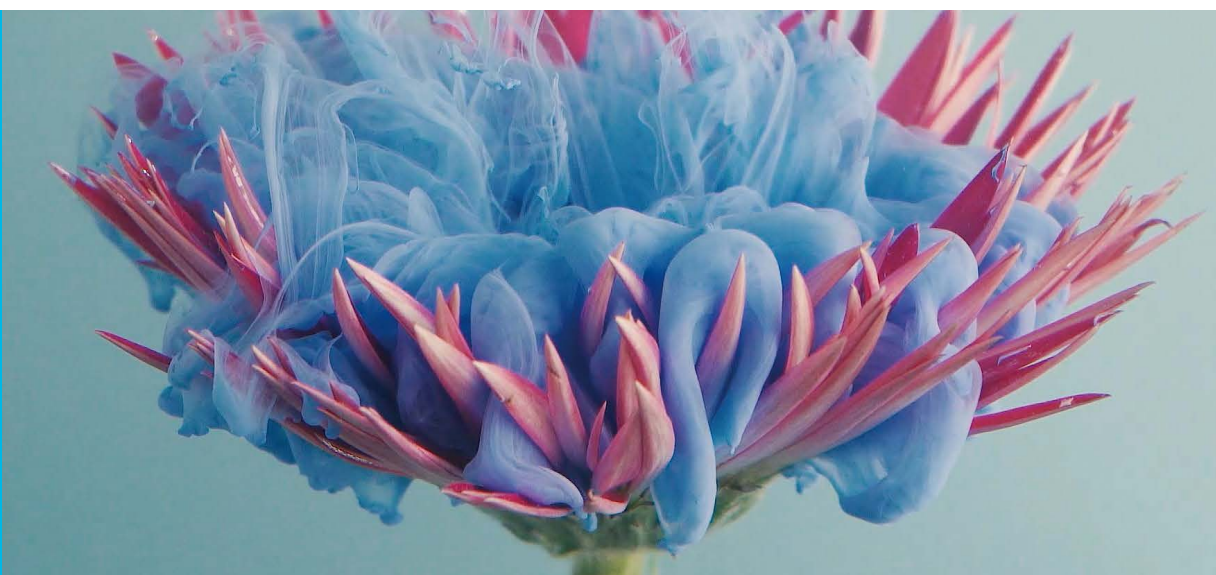


株主のみなさまへ

第127期 報告書(中間) 2024年1月1日～6月30日



目 次

- | | | | |
|---|---|--------------------------------------|----|
| ● 株主のみなさまへ 株主還元方針、連結業績ハイライト …… | 2 | ● セグメント別業績の概要 …… | 7 |
| ● 特集1 長期経営計画「DIC Vision 2030」進捗状況 …… | 4 | ● 連結財務諸表等 …… | 8 |
| ● 特集2 人的資本経営の強化・DICグループが 目指すダイバーシティ …… | 5 | ● 企業CM DIC岡里帆 「未来のなかま 藻類」篇を放送中 …… | 9 |
| ● セグメント別業績 …… | 6 | ● DIC川村記念美術館のご案内 …… | 10 |
| | | ● 会社概要・株主メモ …… | 11 |



株主の皆様には、平素より格別のご支援、ご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。新たに株主となられた皆様には、心よりお礼申し上げますとともに、末永くご支援の程お願い申し上げます。

私は本年1月に社長執行役員に就任して以降、まずは着実に業績を回復軌道に乗せ、企業価値の向上を果たすことを自らの使命と捉え、長期経営計画「DIC Vision 2030」の見直しを公表するとともに、経営資源の最適配分と事業領域に合わせた施策を進めてまいりました。

今後も、新たに立ち上げたケミトロニクス事業本部を中心に、半導体実装分野や先端電子部品分野といった次世代・成長事業の早期創出に向けた取り組みを進めつつ、当社の核となるインキや顔料事業の収益体質の強化に向けた構造改革をスピーディ且つ着実に実行することで、株主の皆様にとって、より成長ドライブに満ちたDICグループへとしていく所存です。

2024年6月30日をもちまして、当社第127期における中間連結会計期間までの営業が終了しましたので、ここにその概況をご報告申し上げます。

株主還元の強化

新たに定めた「キャッシュ・アロケーション方針」に基づき、2024年～26年の3年間をかけて事業ポートフォリオ変革と構造改革、運転資本改善、資産圧縮等の施策によりキャッシュを創出し、それを最適配分することで、株主還元を充実させてまいります。

その一環として、2024年度より1株当たりの年間配当額の下限を100円に設定する配当方針を導入し、安定的な株主還元を実施していきます。また各施策の加速的・積極的な取り組みにより追加キャッシュが創出された場合は追加株主還元に充當いたします。

配当金の推移

■ 中間 (円) ■ 期末 (円)

| | 2020 | 2021 | 2022 | 2023 | 2024 見直し |
|-------------|-----------------|-----------------|-----------------|----------------|-----------------|
| | 100 50 50 | 100 50 50 | 100 50 50 | 80 30 50 | 100 50 50 |
| 配当利回り (%) * | 3.8 | 3.5 | 4.3 | 2.9 | |
| 配当性向 (%) | 71.5 | 216.8 | 53.7 | - | |

* 配当利回り: 年間配当金/期末の株価終値

連結業績のご報告

当中間連結会計期間における当社グループの売上高は前年同期比4.6%増の5,388億円でした。各セグメントの出荷動向に関しては、ファンクショナルプロダクツではエレクトロニクスやモビリティ関連の高付加価値製品を中心に概ね回復傾向が続き、パッケージング&グラフィックでも、ジェットインキや海外のパッケージ用インキが、堅調な需要に支えられて増加傾向となりました。また、カラー&ディスプレイの顔料製品全般も、在庫調整が一巡したことなどにより、特にアジアでは顕著な回復が見られました。

営業利益は、前年同期比120.3%増の219億円でした。高付加価値製品の出荷数量が回復傾向となり、品目構成が改善したことに加え、地域や製品の状況に応じて価格対応に努めたことが増益の主要因となりました。

通期の連結業績見通しと配当金

通期見通しについては、エレクトロニクスやモビリティ関連を中心とした高付加価値製品の拡販と物流コストや原料価格の動向に合わせた適切な価格対応及びコスト削減に引き続き努めることで、増収増益を見込んでいます。

当社は、株主の皆様に対する利益還元を経営の重要課題の一つと位置付けています。

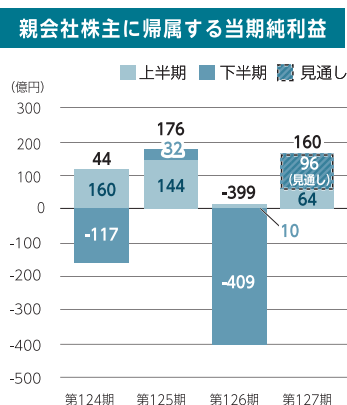
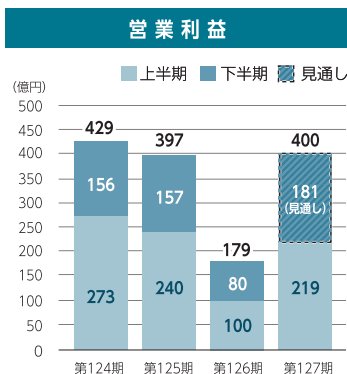
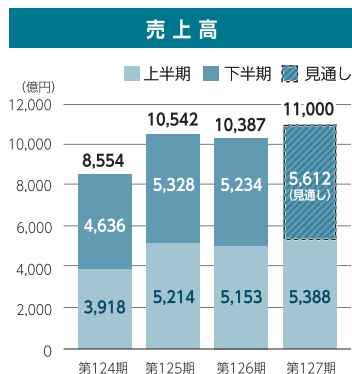
当期の配当につきましては、2024年度より導入した年間配当100円を下限とする配当方針に基づき、中間配当につきましては1株当たり50円を実施し、期末配当につきましても、1株あたり50円とすることを予定しております。株主の皆様には何卒ご理解賜りますようお願い申し上げます。

株主の皆様におかれましては、引き続き変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

代表取締役
社長執行役員

池田尚志

連結業績ハイライト



社会課題解決やサステナビリティに貢献する事業活動を推進

長期経営計画「DIC Vision 2030」で当社は、2つの基本戦略「事業ポートフォリオの変革」と「サステナビリティ戦略」を軸に、経営資源の最適配分と事業領域に合わせた施策を推進し、社会課題解決やサステナビリティに貢献する事業活動に引き続き取り組んでいます。

1 PFASフリーと高性能を両立した自動車（EV）向け潤滑油用消泡剤を開発

当社は、PFAS※フリーと高性能を両立した自動車（EV）向け潤滑油用消泡剤（以下「消泡剤」）を開発しました。今後、製品ラインアップを拡充し、日本や米国、欧州地域における自動車（EV）用潤滑油メーカーへの拡販を進めます。

※ PFAS：有機フッ素化合物（パーフルオロアルキル化合物、ポリフルオロアルキル化合物）の総称

PFAS系消泡剤は、潤滑油への少量の添加で表面張力を下げ、泡膜を破裂させる特性を持ち、金属加工用潤滑油や自動車・工業用ギアオイルなど様々な産業分野で広く使用されています。一方で昨今、PFASの使用にあたり環境への潜在リスクから欧米を中心に規制の議論が進行しており、PFASフリーの代替品需要が高まっています。

本開発品は、こうしたニーズを見据えて開発され、PFASフリーでありながら、環境に配慮した原料の採用と当社独自の分子設計技術により、従来のPFAS系消泡剤と同等以上の高い消泡性、熱安定性、優れた耐久性（せん断安定性）を特徴として持ちます。

当社は、今後も社会課題の解決に貢献するサステナブル製品として、PFASフリー製品のラインアップを拡充し、持続可能な産業活動の推進と環境へのリスク低減に貢献する所存です。



2 サンケミカル社の顔料製品がECO PASSPORT認証を取得 (OEKO TEX®)

当社の子会社であるサンケミカル社は、特定の顔料製品群についてECO PASSPORT by OEKO-TEX®認証（以下「ECO PASSPORT認証」）を取得しました。これは、繊維・アパレル産業を対象に有害化学物質の排出を段階的に削減する活動を通じて地球環境の保護に取り組む団体「ZDHC (Zero Discharge of Hazardous Chemicals)」が認定するうちの最高レベル「ZDHC Level 3」に適合します。

ECO PASSPORT認証は、繊維や皮革の化学物質について有害物質を検査し、化学物質メーカーの生態学的健全性を評価するものです。このプロセスには、化学物質を特定するための番号であるCAS番号のスクリーニング、自己評価、および現地調査等が含まれます。

ECO PASSPORT認証の取得は、プラスチック用顔料事業におけるサステナビリティ実現に向けた重要な取り組みの一つです。同認証は、2025年初頭までに繊維廃棄物の分別回収を達成するために、EU Strategyで設定された“持続可能で循環的な繊維のための戦略”という要件を満たすうえでも極めて重要であり、同認証の取得によりバリューチェーン全体に更なる利益をもたらすこととなります。



「Nextなでしこ 共働き・共育て支援企業」 に初選定



当社は、経済産業省と東京証券取引所が共同で主催する令和5年度「Nextなでしこ 共働き・共育て支援企業」に初選定されました。同選定は、令和5年度に新設されたもので、全業種から16社（うち素材・化学業種は2社）が選定されました。

当社はグループ全体で柔軟な働き方の推進、キャリアを継続できる施策の整備、採用から登用までのキャリア形成支援など様々な取り組みを進めてきたことに加え、男性社員も子育てに参加できるよう環境を整備し、共に育て共に働ける企業風土醸成に努めています。

こうした取り組みにより、当社社員の平均勤続年数は男女差を解消（2023年現在：男性社員19.3年、女性社員20.5年）、産休からの復職率はほぼ100%、男性社員の育児休業取得率は約90%などの成果を得ています。今回の選定では、これらの取り組みや実績に加え、積極的な情報開示が高く評価されました。

また国内DICグループでは役員や社員のダイバーシティ数値目標に加え、ワークライフバランスに関する数値目標である男性育児取得率等を設定しています。具体的には下表のKPIを掲げています。

経済産業省ニュースリリース（外部） <https://www.meti.go.jp/press/2023/03/20240321002/20240321002.html>



ダイバーシティKPI

| | DIC | 実績 | | | 目標 | |
|----|-----------------------------|-------------|-------|---|-----------------------------|-------|
| 1 | 取締役・監査役に占める外国人・女性比率 | 2024年 1月 | 15.4% | ⇒ | 2026年 1月 | 20.0% |
| 2 | 執行役員に占める外国人・女性比率 | | 19.0% | ⇒ | | 20.0% |
| 3 | 女性管理職比率 | | 8.1% | ⇒ | | 8.0% |
| 4 | 採用に占める外国人の比率 | 2023 年度 | 5.0% | ⇒ | 2025 年度 | 5.0% |
| 5 | 新卒採用に占める女性の比率 | | 32.2% | ⇒ | | 30%維持 |
| 6 | 中途採用に占める女性の比率 | | 19.6% | ⇒ | | 30.0% |
| 7 | 男性社員育児休業取得率 | | 33.6% | ⇒ | | 30.0% |
| 8 | 子育てパートナー休暇取得率 | | 79.0% | ⇒ | | 90.0% |
| 9 | 障がい者雇用率 | | 2.4% | ⇒ | | 法定以上 |
| 10 | 男女の賃金の差異（男性の賃金に対する女性の賃金の割合） | | | ⇒ | 2023年度は実績値のみ、 今後KPIを設定予定 | |
| | 正社員（無期雇用・フルタイム） | | 76.4% | | | |
| | 非正規社員（パート・有期雇用） | | 52.4% | | | |
| | 全労働者 | | 67.1% | | | |

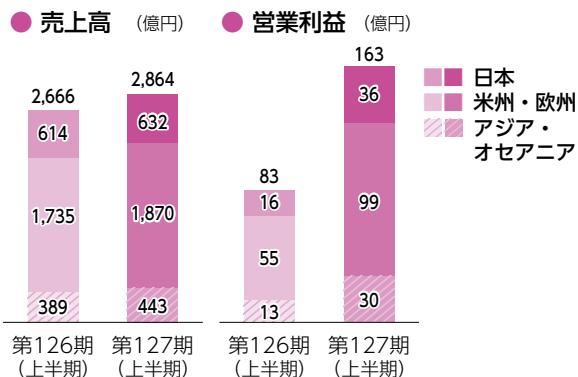
当社は、今後も全ての従業員が自律的にキャリアを形成し、多様な人材がその能力を最大限に発揮できる機会・環境を整えていくことで、絶えずイノベーションを生み出し、新たな価値を創造できる企業になることを目指します。

セグメント別業績

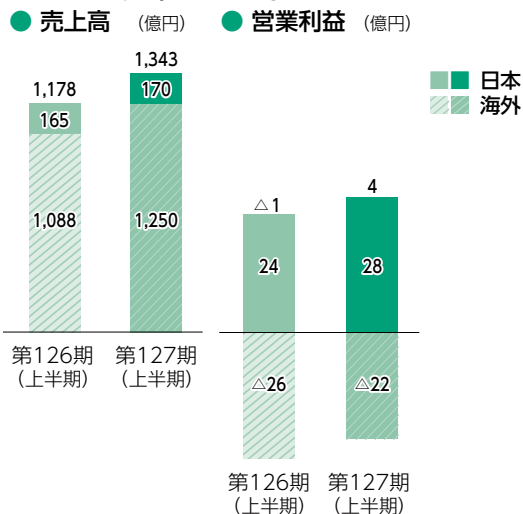
(単位：億円)

| セグメント | 売上高 | | | | 営業利益 | | | |
|--------------------|-------------------|-------------------|---------|-------------|-------------------|-------------------|----------|-------------|
| | 前中間 連結会計 期間 | 当中間 連結会計 期間 | 前年同期比 | | 前中間 連結会計 期間 | 当中間 連結会計 期間 | 前年同期比 | |
| | | | | | | | | |
| | | | | 現地通貨 ベース | | | | 現地通貨 ベース |
| パッケージング& グラフィック | 2,666 | 2,864 | + 7.4% | + 1.3% | 83 | 163 | + 96.4% | + 99.3% |
| カラー & ディスプレイ | 1,178 | 1,343 | + 13.9% | + 3.9% | △ 1 | 4 | 黒字化 | 黒字化 |
| ファンクショナル プロダクツ | 1,494 | 1,391 | △ 6.9% | △ 10.3% | 67 | 106 | + 58.3% | + 50.4% |
| その他、全社・消去 | △ 185 | △ 209 | — | — | △ 48 | △ 53 | — | — |
| 計 | 5,153 | 5,388 | + 4.6% | △ 1.5% | 100 | 219 | + 120.3% | + 116.7% |

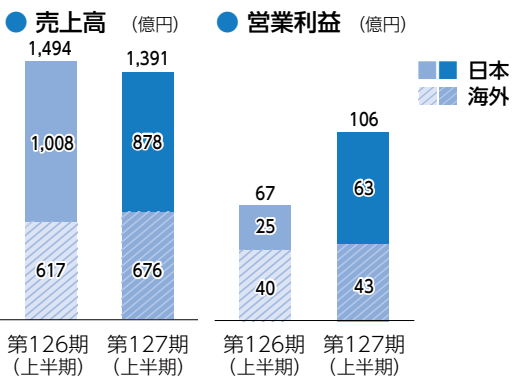
パッケージング&グラフィック



カラー&ディスプレイ



ファンクショナルプロダクツ



※グラフの数値にはセグメント内の地域間取引が含まれており、合計金額は上記の業績数値と必ずしも一致しません。

セグメント別業績の概要

パッケージング & グラフィック

Packaging & Graphic

上半期売上高

2,864 億円

前年同期比 +7.4%

上半期営業利益

163 億円

前年同期比 +96.4%



【売上高増減要因】

- ・ パッケージ用インキ：米州や欧州での消費財需要の戻りやアジアでの顧客開拓などにより、海外で出荷を伸ばし、増収
- ・ 出版用インキ：アジアでは出荷を伸ばしたが、国内と米州や欧州において需要減少を背景に出荷が減少し、減収
- ・ ジェットインキ：顧客による在庫調整の解消に伴って需要が回復したことで出荷を伸ばし、増収

【営業利益増減要因】

- ・ 国内：高付加価値製品であるジェットインキの出荷増、パッケージ用・出版用インキのコスト増への価格対応などにより、増益
- ・ 海外：アジアでのインキ製品の好調な出荷、米州や欧州での安定供給やサービスを通じた販売価格の維持などにより、増益

カラー & ディスプレイ

Color & Display

上半期売上高

1,343 億円

前年同期比 +13.9%

上半期営業利益

4 億円

前年同期比 黒字化



【売上高増減要因】

- ・ 塗料用顔料とプラスチック用顔料：各地域で在庫調整が一巡し、改めて在庫確保の動きに転じたことで出荷が増加
- ・ カラーフィルタ用顔料：パネルメーカーの稼働調整の解消に伴い、出荷が回復
- ・ 化粧品用顔料：欧米において顧客需要が伸び悩み、出荷が停滞
- ・ スペシャルティ顔料：農業向けは顧客の在庫調整により伸び悩むも、建築向けはアジアでの顧客開拓により出荷が伸長

【営業利益増減要因】

- ・ 全般的に顔料製品の出荷が増加し、品目構成が改善したこと、欧米を中心に生産体制等の構造改革を進め、コスト削減を進めたことなどにより、黒字化

ファンクショナルプロダクツ

Functional Products

上半期売上高

1,391 億円

前年同期比 △6.9%

上半期営業利益

106 億円

前年同期比 +58.3%



【売上高増減要因】

- ・ 全般：星光PMC株式会社売却等の事業撤退による影響を受け、セグメント全体として減収。同影響を除くと前年同期比8.1%の増収
- ・ エポキシ樹脂：AIサーバーやPC、スマートフォンの需要回復に伴い、関連用途の出荷が伸び、品目構成が改善ことで、増収
- ・ 工業用テープ：主用途のモバイル機器向けについて、着実に需要を取り込み、増収
- ・ PPSコンパウンド：自動車市場におけるサプライチェーン上の余剰在庫の解消により、モビリティに関連した製品の出荷が回復し、増収

【営業利益増減要因】

- ・ エレクトロニクスやモビリティに関連した高付加価値製品の出荷が回復傾向となり、品目構成が改善したこと、各製品において価格対応に努めたことなどにより、増益

連結財務諸表等

連結貸借対照表（要約）

2024年6月30日現在

| (単位：億円) | |
|---------------------------|---------------|
| 科 目 | 金 額 |
| 流動資産 | 7,006 |
| 有形固定資産 | 3,763 |
| 無形固定資産 | 736 |
| 投資その他の資産 | 1,878 |
| 資産合計 | 13,383 |
| | |
| 流動負債 | 3,861 |
| 固定負債 | 5,223 |
| 負債合計 | 9,084 |
| 株主資本 | 3,662 |
| その他の包括利益累計額 (為替換算調整勘定) | 444 (584) |
| 非支配株主持分 | 193 |
| 純資産合計 | 4,299 |
| 負債純資産合計 | 13,383 |

連結損益計算書（要約）

2024年1月1日～2024年6月30日まで

| (単位：億円) | |
|------------------------|--------------|
| 科 目 | 金 額 |
| 売上高 | 5,388 |
| 売上原価 | △ 4,257 |
| 販売費及び一般管理費 | △ 912 |
| 営業利益 | 219 |
| 金融収支 | △ 27 |
| 持分法投資損益 | 10 |
| 為替差損益 | 3 |
| その他 | △ 6 |
| 経常利益 | 200 |
| 特別利益 | 48 |
| 特別損失 | △ 91 |
| 税金等調整前中間純利益 | 157 |
| 法人税等 | △ 87 |
| 中間純利益 | 70 |
| 非支配株主に帰属する中間純利益 | △ 6 |
| 親会社株主に帰属する中間純利益 | 64 |

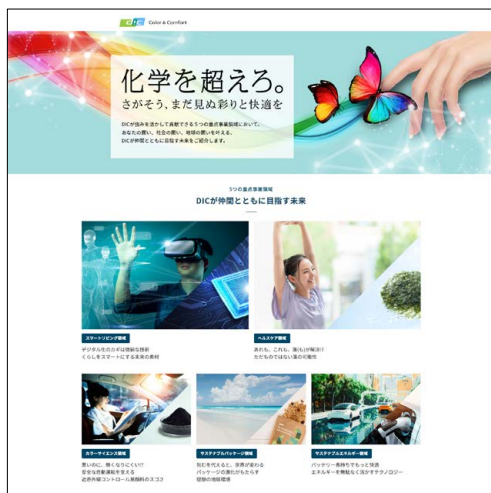
連結キャッシュ・フロー計算書（要約）

2024年1月1日～2024年6月30日まで

| (単位：億円) | |
|------------------|-------|
| 科 目 | 金 額 |
| 営業キャッシュ・フロー | 145 |
| 投資キャッシュ・フロー | △ 72 |
| フリーキャッシュ・フロー | 73 |
| 財務キャッシュ・フロー | 185 |
| 現金及び現金同等物に係る換算差額 | 95 |
| 現金及び現金同等物の増減額 | 353 |
| 現金及び現金同等物の期首残高 | 846 |
| 現金及び現金同等物の期末残高 | 1,200 |

企業CM DIC岡里帆「未来のなかま 藻類」篇を放送中

吉岡里帆さんを起用した企業CM「DIC岡里帆(ディーアイシーおか・りほ)」シリーズでは社会課題の解決に貢献する事業を取り上げ、人と地球の未来をより良いものにするため、持続的な豊かさを追い求める企業姿勢を伝えるよう心掛けています。今回の「未来のなかま 藻類」篇では、「藻」に秘められた「ただものじゃない」魅力と可能性を、大学生との語り合いを通じて発信しています。



「化学を超えろ。」サイトを公開

2024年1月に公開した「化学を超えろ。」サイトでは、長期経営計画に掲げる5つの重点事業領域において、あなたの願い、社会の願い、地球の願いを叶える取り組みを通じて、当社が仲間とともに目指す未来を紹介しています。下記のQRコードよりぜひご覧ください。

<https://www.dic-global.com/ja/kagakuwokoero/>

QRコード ▶



DIC 川村記念美術館のご案内



DIC川村記念美術館は、当社が関連会社とともに収集してきた美術品を公開するため、千葉県佐倉市の総合研究所敷地内に1990年に設立した美術館です。

17世紀のレンブラントから、印象派、エコール・ド・パリ、そして20世紀後半のアメリカ美術まで多彩なコレクションを展示するとともに、コレクションと関連性のある作家やその時代を取り上げながら、コレクションへの理解を深めるための企画展を年に数回開催しています。

美術館の展示情報

企画展 西川勝人 静寂の響き

2024年9月14日(土)～2025年1月26日(日)

ドイツを拠点に活動する西川勝人(1949-)は、光と闇、その間の漠とした陰影に心を配り、多様な技法を用いた作品を、40年以上にわたり手がけてきました。抽象的なフォルムをもつ彼の白い彫刻は、木や石膏を用いた簡素な構造ながら、表面に淡い陰影を宿し、周囲の光や音さえもそっと吸い込んでしまうように、ただ静かにあります。存在を声高に主張することも、個性を高らかに示すこともしません。写真や絵画など、彫刻以外の制作においても、これは変わることのない最大の魅力です。

本展は、1980年代より現在まで、一定して静けさという特質を保持し続ける西川作品の美学に触れる日本初の回顧展です。彫刻、写真、絵画、ドローイング、インスタレーション、建築的構造物の約70点が、作家自身の構成によって展示されます。静寂が拡がり、静謐さに包まれた空間で、私たちはどのような情景と出会うのでしょうか。日常から隔たった美術館という場において、観想に耽る一人ひとりのための展覧会です。



《根》1994年
塗料、石膏、木 77×38×38 cm 作家蔵
© Katsuhito Nishikawa 2024

※ 企画展開催中もコレクション展示をご覧ください。

8月に1周忌を迎えた桑山忠明や、今年5月に逝去したフランク・ステラの特集展示を1月26日(日)まで行っています。

開 館 時 間 : 9:30～17:00 (最終入館16:30)

休 館 日 : 月曜日(祝日の場合は開館し、翌平日に休館)、年末年始、展示替え・メンテナンス期間

所 在 地 : 千葉県佐倉市坂戸631

交 通 : ・お車で → 東関東自動車道「佐倉IC」から約5km、無料駐車場160台完備
・電車+送迎バスで → JR総武本線「佐倉」駅または京成本線「京成佐倉」駅より
無料送迎バス(JR佐倉駅 → 約20分/京成佐倉駅 → 約30分)
・高速バスで → 東京駅八重洲北口の京成バス3番乗り場から1日1往復運行、
片道約60分(2024年7月付確認現在)

お問い合わせ : 展覧会の詳細など、最新情報はウェブサイトでお知らせしています。

<https://kawamura-museum.dic.co.jp> TEL: 050-5541-8600 (ハローダイヤル)

QRコードからの
アクセスはこちらから



会社概要・株主メモ

■ 会社概要

ー 2024年6月30日現在ー

| | | |
|------|---|---|
| 商 | 号 | DIC株式会社 DIC Corporation |
| 本 | 店 | 〒174-8520 東京都板橋区坂下三丁目35番58号 電話 03 (3966) 2111 |
| 本 | 社 | 〒103-8233 東京都中央区日本橋三丁目7番20号 ディーアイシービル 電話 03 (6733) 3000 |
| 創 | 業 | 明治41年2月15日(1908年) |
| 設 | 立 | 昭和12年3月15日(1937年) |
| 従業員数 | 株 | 連結21,304名 <単体4,014名> |
| 式 | の | 発行する株式の総数 150,000,000株 |
| 状 | 況 | 発行済株式の総数 95,156,904株 |
| | | 株主数 42,732名 |
| | | 1単元の株式の数 100株 |

■ 株主メモ

| | |
|--------------|---|
| 事業年度 | 1月1日～12月31日 |
| 定時株主総会 | 3月 |
| 期末配当金受領株主確定日 | 12月31日 |
| 中間配当金受領株主確定日 | 6月30日 |
| 株主名簿管理人 | 三菱UFJ信託銀行株式会社 |
| 特別口座の口座管理機関 | 三菱UFJ信託銀行株式会社 |
| 同連絡先 | 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 TEL 0120-232-711 (通話料無料) TEL 042-204-0303 (通話料有料) |

| | |
|---------|---|
| 上場証券取引所 | 東京証券取引所 |
| 公告の方法 | 電子公告（ただし、電子公告によることが出来ない事故、その他のやむを得ない事由が生じた時には、日本経済新聞に公告いたします。） URL https://www.dic-global.com/ |

株主優待制度

| 保有株式数※ | 優待内容 | 基準日※ |
|--------|-----------------|--------|
| 100株以上 | DICオリジナルカレンダー1部 | 6月30日 |
| | DICグループ製品 | 12月31日 |

※「基準日」現在に株主名簿に記載または記録された「保有株式数」の株式を保有する株主様に一律贈呈します。

■ 株式に関する『マイナナンバー 制度』のご案内

市区町村から通知されたマイナナンバーは、株式の税務関係の手続きで必要となります。このため、株主様から、お取引の証券会社などへマイナナンバーをお届出いただく必要があります。

株式関係業務におけるマイナナンバーの利用

法令に定められたとおり、支払調書には株主様のマイナナンバーを記載し、税務署へ提出します。

<主な支払調書>

- ・配当金に関する支払調書
- ・単元未満株式の買取請求など株式の譲渡取引に関する支払調書

マイナナンバーのお届けに関するお問い合わせ先

- ・証券口座にて株式を管理されている株主様
お取引の証券会社に問い合わせください。
- ・証券会社とお取引がない株主様
左記に記載の三菱UFJ信託銀行株式会社
証券代行部にお問い合わせください。

【ご注意】

- 住所変更、買取請求その他各種手続きにつきましては、口座を開設されている口座管理機関（証券会社など）にお問い合わせください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種手続きにつきましては、上記の特別口座の口座管理機関にお問い合わせください。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いします。

本冊子のデザインはユニバーサルデザインフォントを使用し、
印刷には VOC (揮発性有機化合物) 成分ゼロの環境にやさしい
DIC グラフィックス株式会社の100%植物油型インキ『**ナチュラリス100**』を使用しています。



Color & Comfort

株主・投資家情報



<https://www.dic-global.com/ja/ir/>